



サンビオティック農業で大豊作！

きゅうり・ゴーヤー栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
	育苗期	育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	播種または鉢上げする場合は培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和します。上記混和後2週間程度おいて良くなじんでから使用します。
		菌カアップ コーソゴールド	200倍希釈 500倍希釈	7日おきに灌水 (4回以上)	左の希釈倍率は、ポット育苗の場合です。セルトレー育苗の場合は、根鉢が巻きすぎ、老化または肥料欠乏になりやすいため、菌カアップは500倍希釈と薄めに行います。
		コーソゴールド	500倍希釈	葉面散布 (7~10日おき)	花芽分化促進となります。防除の際、農薬とコーソゴールドを混用して散布すると良いです。病害虫多発時は、本気Ca2000倍を加用します。
	本圃準備 (元肥)	五穀堆肥 有機百倍 鈴成	(夏秋) 50袋 7~10袋 10袋 (冬春) 50袋 10~15袋 15袋	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pHを6.5程度に調整するため、石灰、苦土などを施用しておきます。苦土入りのカキ殻石灰などがお勧めです。 その後、2~3トン程度パーク堆肥・牛糞堆肥などの堆肥を施用します。五穀堆肥の場合は50袋です。豚糞、鶏糞の場合は、500kg以下とします。堆肥施用後混和し、1か月置きます。薬剤土壌消毒や太陽熱消毒、還元消毒をした後は微生物が減っています。消毒後に必ず菌カアップ5~10リットルを灌水します。 元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。その他、苦土や加里などの不足は、市販肥料で補います。(硫マグ、硫酸加里)
	定植期~ 初期生育	菌カアップ コーソゴールド 本気Ca	5リットル 2kg 1リットル	5~7日おきに 灌水(4回以上)	活着促進、初期生育の促進のため、定植直後は菌カアップ200倍を、1~2回ほど手灌水します。 活着後は、左記のとおり。水量は1トン程度、十分にしみわたる量。 さらに農薬散布時には、コーソゴールド500倍、本気Ca2000倍を混合散布すると、病害予防、花芽促進等に良いです。
	収穫開始 ~	(収量アップ) 菌カアップ 糖カアップ コーソゴールド	5リットル 5~10kg 2~3kg	7日おきに 灌水(継続) (1~2トンの水 で希釈)	収穫期間を通じて発根作用を停滞させないことが重要。そのため、菌カアップは年内、および春先3月~4月は必ず施用する。(春先のセンチュウ被害対策にもなります。) 糖カアップは収量アップ、なり疲れ防止で2番花の花芽分化後から灌水をはじめ、厳冬期も継続します。春先から止めて構いません。 コーソゴールドは、食味・品質向上、病害予防のため。灌水の間隔や量は、生育を見てその都度調整します。
		(花芽・品質向上) コーソゴールド 本気Ca(マジカル)	500倍希釈 2000倍希釈	7日おきに 葉面散布 (月2~3回)	発酵リン酸とキレートカルシウムを吸収し、花落ちの防止、玉肥大、食味の向上、軟果防止に効果的です。 煙霧機で散布する場合は、コーソゴールド200g、本気Caは100g、それぞれ混ぜずに別々に噴霧します。
		(生理障害予防) マジ鉄 海王	5,000倍希釈 7,000倍希釈	7日おきに 葉面散布 (随時)	マジ鉄は、光合成と糖の転流を促進、そして物質変換の酵素を活性化します。新葉のミネラル欠乏を防ぎ、ワックスを作ります。花芽分化や花落ち防止にも。海王は、植物ホルモンの働きを良くします。農薬、上記資材との混用可。
病害虫 発生時	フザリウム、ツル枯れ、ツル割れ、ホモプシス、センチュウなど	菌カアップ	10リットル	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	土壌病害は必ず初期症状で発見し対応する。殺菌剤等を使用したのち、菌カアップで病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。ネコブセンチュウの場合は、糖カアップ5kgを混用する。3日おき4回灌水が終了したら、使用量を半分にして、7日おきに灌水を継続する。
	病害、虫害 の対応	本気Ca 本格にがり	1000倍希釈 500倍希釈	3~4日おきに 葉面散布(5回)	葉の病害や害虫の場合は、殺虫剤・殺菌剤を併用し、葉面散布します。窒素過多の場合は、純正木酢液500倍を加用します。

※糖カアップは、点滴灌水、ドリップ灌水では詰まりますので使用をお控えください。

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。